

混雑交差点に流入する自動車の起終点調査について

大阪市総合計画局 正員 寺田 久弥
 “ “ “伊藤 和雄

1 調査の目的および方法

昭和42年11月に大阪市内の混雑交差点13カ所において、交差点に流入する自動車の出発地、目的地、走行経路、走行目的等の調査を実施した。この調査は混雑交差点およびその周辺地区の自動車交通流の特性を把握して、交差点改良計画の資料とすることを目的とするものである。

調査の方法は、交差点に流入する自動車の運転者に図-1のような調査票を配布し、郵便にて回収するもので、調査員は信号待ちのため停車している自動車に前から順々に調査票を配布し、信号の変る前に歩道上にもどるようにした。調査票は平日の9～12時および13～16時に、バス、特殊車、二輪車および空車のタクシーを除く全自動車に配布したが、タクシーの場合は乗客に配布するようにした。

車種別交通量の観測は人員の関与で、調査票の配布とは別に実施した。調査票の回収率は平均約13%であった。

2 調査結果の解析

交差点に流入したときのトリップのO.D.表を流入方向別に作成し、その希望路線および

図-1 調査用はがき

交 差 点 交 通 調 査 票	
①車 種	() 記号で御記入下さい。
②出発地	市 区 町 丁目 著名な建物・施設名 ()
③目的地	市 区 町 丁目 著名な建物・施設名 ()
④目 的	() 記号で御記入下さい。
⑤	下図に走行された道順を御記入下さい。

この調査票は 梅田新道 交差点を通行された自動車にお渡ししています。ご面倒ですが、下記の事項のお答を右欄に御記入の上御投函下さい。(切手をはる必要はございません)

[タクシー・ハイヤーの場合は御乗客が御記入下さい。]

——・—— 御 記 入 願 う 事 項 ——・——

① 自動車の種類
 (A) タクシー・ハイヤー (B) その他の乗用自動車
 (C) 大型貨物自動車(2トン以上) (D) その他の貨物自動車

② 出 発 地
 梅田新道交差点を通行される前にある用件で車をとめられた場所(地名不明の場合は付近の著名な建物・施設名)

③ 目 的 地
 梅田新道交差点を通行後最初にある用件で車をとめられた場所(地名不明の場合は付近の著名な建物・施設名)

④ 走行の目的
 (A) 通勤・通学 (B) 会議打合せ (C) 書類持参
 (D) 送 迎 (E) 配達・集金 (F) 仕入・売込
 (G) 家事・買物 (H) 医療・厚生 (I) 社交・娯楽

⑤ 走行の道順を右図に
 のように御記入下さい。出発地 → 目的地
 出発地・目的地が地図の外にあるときは道順だけを地図のはし
 まで御記入下さい。

集中分散方向を示したものが図-3および4である

図-2は交差点に流入する自動車の流入経路と流出経路を示したものである。走行経路は主要な街路にのみ追跡し、細街路に吸収された場合はその地点までとした。

交差点流入時のトリップの起点および終点と交差点との距離の分布は交差点の立体化を検討する資料となるものと思われるので、調査を実施した13の所の交差点において比較検討した。また交通の希望路線と交差点との距離の分布は交通の偏りと周辺街路の不整備により、ある特定の交差点への交通の集中の有無を示すものと思われる。

走行目的調査は自家用乗用自動車だけでなく、タクシーや貨物自動車の走行目的をも調査した。

調査車の配布が信号持の自動車のみに限られたため、調査結果の右左折直進率と実測値とを比較したが、ほぼ同じ値が得られた。

現在、市内混雑交差点において、立体化が考えられてゐる地点について、これらの資料を用いて具体的な検討を進めてゐる。

